

～ シリアル・ルネッサンス ～ <http://www.riceisland.co.jp>

国内産雑穀が余っている！

国内産雑穀の現状とは・・・

雑穀は寒冷地とか・土壌がやせているため、米がとれない地域の米の代用食として作られてきました。戦後そういった地区でも米が取れるようになり、現在では、一部の生産者がある頃の習慣として細々と栽培している状態です。国内産の雑穀生産量は、流通の数パーセントが産地で細々と売られている程度です。輸入される雑穀は、鳥の餌など、飼料用として国内に入ってくるため、農水省などの統計にも、その正確な量の把握はできない状態です。また、餌なるがゆえに、食品として扱われていないことから、ずさんな経過で店頭に並んでいることも否定し切れません。雑穀の産地として有名な岩手県でも、国内産雑穀が輸入雑穀に化けて国内産として大量に販売されているのが現状です。岩手県北は偽の産地表示・偽の生産者証明の雑穀がまかり通る産地でもあります。これは業界内では周知の事実となっています。しかも、国内産雑穀は、輸入している雑穀の約15倍の仕入れ価格で販売されているため、輸入雑穀ビジネスは儲かるということが簡単に想像できます。そのため、市場に流れるのは殆どが輸入の雑穀ということになります。R Iでも昨年産の国内産雑穀が約40トン余らしてしまいました。売り場では、国内産の要望が多いにもかかわらず、ブレンドすると原産国表示をしなくても良いからです。生産者がトレースできる雑穀が余り、ポストハーベストの危険のある輸入雑穀が食卓に並ぶことは、悲しい事実なのです。

中国産雑穀はなぜ危険！？

雑穀について、他紙において問題が指摘されています。「雑穀は輸入品が国産品として偽って売られていることがある。鳥や馬の飼料用雑穀は関税が安く、こうした雑穀が横流しされ食用に出回っている可能性がある。飼料用の雑穀は中国から輸入されている。雑穀栽培は病虫害に強いので、農薬は使用されても除草剤だけで、栽培中に殺虫剤はほとんど使用されていない。雑穀から検出されたマラソン（有機リン系殺虫剤）は、収穫後に混入されたポストハーベスト農薬と考えられる。（「食べるな危険！」講談社 子孫基金より）このような説を覆せる、有力な情報は、未だに公開されていません。ライスアイランドでは、弊社社員を直接中国へ派遣し、種から、商品が手元に届くまで管理しているため、そのような心配は無く、安心してお使いいただけます。

新商品のお知らせ

業界初！！麦より売れている雑穀ブレンドが安心の【国内産】で新登場！
国内産原料にこだわった雑穀をブレンド。食べるとモチモチ感があり
8種類の雑穀色で見た目もきれいです。食べ飽きる事がなく、原料は
すべて国内産ですので、安心して毎日お召し上がり頂けます。



第1回全国直売所研究会交流会に出展します！

テーマ：第1回日本全国直売所祭り - 集まれ！つくばへ、オールニッポンの直売所

日時：2005年10月29日（土）・30日（日） 場所：茨城県つくば市柳橋496「みずほの村市場」特設会場